

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871000331
法人名	有限会社たちばな
事業所名	グループホームたちばな
所在地	伊予市灘町136番地2
自己評価作成日	平成25年6月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年7月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>協力医院と連携してご利用者様の健康管理をおこなっており、またリハビリなども行ないADLの向上に努めている</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●事業所は、「医療行為ができるグループホーム」を特徴としておられ、協力医や訪問看護と連携して、「胃ろうや糖尿病の処置も可能」になっている。事業所では、早期に利用者の変化に気付くことに努めておられ、その都度、訪問介護や協力医に報告するようになっている。</p> <p>●管理者は、開設時から地域との関係作りに向けて、取り組みを重ねてこられ、現在は、地域の婦人会や消防団、商店街の方達との関係が深まってきている。地域の集まりに積極的に参加され、事業所の取り組みを伝えたり、認知症の理解を拡げてもらえるよう話したりされた。又、婦人会からの要請があり、認知症について管理者が講話されたこともある。この一年間では、地元の方からの介護相談も増え、利用につながっているようなケースも複数ある。</p> <p>●近所で強盗被害があったことを機に、事業所建物内にモニターカメラを設置されており、グループホームには、各ユニットの居間に一台カメラを付けられている。「防犯と利用者の様子を見るための設置」とのことである。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームたちばな

(ユニット名) グループホームB棟

記入者(管理者)

氏名 山本 律子

評価完了日 平成25年 6月16日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) スタッフ掲示板にし、いつでも見ることが出来るようにしている。 (外部評価) 「心のやすらぎ、生きがいをもち充実した生活を送れる」と理念を揚げておられ、職員採用時には管理者が方針とあわせて話しておられる。協力医である系列医療機関の医師は、往診等で事業所を訪れて、事業所の理念や方針について具体的に職員に語ったり、実践して見せてくれている。ケアマネジャーは、理念に基づきながら介護計画を立てることに努めておられる。今後さらに、職員が一丸となって取り組みをすすめていけるよう、すべての職員で理念について考えたり、話し合ったりするような機会を作ってはどうか。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・外出や行事など、外部の方やご家族をできるかぎり招くよう取り組んでいる。 ・定期的に新聞を発行している。 ・ご利用者様が生育環境のなかで心身の安定が図れるよう地域への外出を行なっている。 (外部評価) 管理者は、開設時から地域との関係作りに向けて、取り組みを重ねてこれ、現在は、地域の婦人会や消防団、商店街の方達との関係が深まってきている。地域の集まりに積極的に参加され、事業所の取り組みを伝えたり、認知症の理解を拡げてもらえるよう話したりされた。又、婦人会からの要請があり、認知症について管理者が講話されたこともある。今後は地域の方達の力を借りて、利用者に向けて詩吟やフラダンス等の教室をお願いしたいと考えておられた。この一年間では、地元の方からの介護相談も増え、利用につながっているようなケースも複数ある。今後は、そのネットワークを活かして、利用者地域資源をつなげて、利用者個々が地域の中で暮らし続けられるような支援に取り組まれてほしい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・定期的に消防署との連絡をとり、非常時の対応や応急処置の方法を学ぶようにしている。 ・概ね2ヶ月ごとに運営推進会議を実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) ・地域での防災対策について消防や行政の方も出席いただき、理解を深めた。 ・気候の良い時期に、ご家族・地域のボランティア・職員とともに芸能や食事を楽しむ機会をもつことが出来た。 ・「認知症」について、近隣の医師の協力を得て地域の方々に向けて情報発信し、理解を広げることができた。</p> <p>(外部評価) 事業所では、「ご家族や地域とのつながり作り」に向けて、母の日・敬老会・クリスマス会・消防訓練等と併せて会議を開催されている。会議には、ご家族や利用者・民生委員の方や近隣住民、消防署の方等が参加されている。今後は、介護や認知症等の理解を深めていただけるような会議内容等も採り入れたいと考えておられた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ・空室、待機状況を月1回定期的に情報提供している。 ・ケアプランや基準など疑問点については市へ確認を行っている。</p> <p>(外部評価) 市の担当者が運営推進会議に参加されて、事業所の取り組み等の報告を聞いてくれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ・病状の悪化防止や危険防止のための抑制はあるが、できるかぎりご利用者様の気持ちを大切に、必要最低限の実施としている。</p> <p>(外部評価) 協力医である、系列医療機関の医師が事業所に来られた際、職員に身体拘束やケガ等についての知識を話されている。近所で強盗被害があったことを機に、事業所建物内にモニターカメラを設置されており、グループホームには、各ユニットの居間に一台カメラを付けられている。「防犯と利用者の様子を見るための設置」とのことである。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・研修参加の機会は持っていない。 ・ご利用者様の身体チェックをおこない受傷原因・経緯を検証して注意喚起している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・ケアマネジャーが権利擁護、成年後見に関する研修を受講している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・文書と口頭説明により充分ご理解いただいたうえで署名捺印していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 職員からご家族へ連絡し、ご要望に添えるよう努めている。面会等の際はご利用者様の日頃の様子を伝えるようにしている。 (外部評価) 利用案内時には、ご家族に対して、「ご家族の協力がいる」ことを説明されており、ご家族は、外出や外泊、又、食事介助等に協力的のようだ。さらに、管理者は、犬をかわいがっておられた利用者のご家族に、飼い犬を事業所に連れて来てもらえるようお願いする等して、協力をお願いされている。モニターカメラの設置について、ご家族に設置理由を説明された。	現在は、家族会は作られていないが、今後、開設10周年を機に、「家族会を行いたい」と考えておられた。利用する側であるご家族の意見や要望は、事業所のサービス向上へのきっかけにもなる。利用者とともに支えるケアパートナーとして、ご家族も一緒に活動するような機会を、今後さらに工夫されてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回定期的にスタッフ会議を開催している。必要に応じ管理者会議へ参加して意見交換をおこなっている。	管理者は、「核となる職員を育成したい」と考えておられる。又、「すべての職員が、事業所のルールを守るよう取り組みたい」と話しておられた。今後さらに、職員のスキルアップに向けた取り組みや、職員の声等も聞きながら働きやすい職場作りをすすめ、職員の定着に努力していかれてほしい。
			(外部評価) 現在は、新しい職員が多く、ケアや業務等を覚えることに励んでおられるところである。食事や入浴等、職員が責任を持って取り組む仕組みを作り、入浴専門職員には入浴支援の研修をすすめる等、管理者が該当する職員に声をかけて、研修参加を促しておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 各人の能力に応じた勤務体制をとっている。日常の気づきや業務に関して他の職員に周知したり、評価・称賛する制度を設けている。	
			(外部評価) 職員の能力に応じ業務内容や研修・会議等の参加をさせている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎週土曜日に同施設内他事業所スタッフと交流の機会を作っている。	
			(外部評価) 毎週土曜日に同施設内他事業所スタッフと交流の機会を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 毎週土曜日に同施設内他事業所スタッフと交流の機会を作っている。	
			(外部評価) 毎週土曜日に同施設内他事業所スタッフと交流の機会を作っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 好き嫌いや生活リズム、周囲の環境等把握するように努めている。	
			(外部評価) 好き嫌いや生活リズム、周囲の環境等把握するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 経済面、生活面、健康管理・医療についての連携や流れ、悪化時のホーム側の対応を説明し、安心して利用していただけよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご利用者様にとっての安全と安心に対するサービスの内容や家族にとっての不安や負担を聞くようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に生活する家族として考え対応するよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会等の際、ご家族の希望を聞くことや、ご本人様の状態を伝えご家族にとっても安心していただけるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来ていただいたり、こちらから会いに行けるように支援している。また、馴染みの場所への外出やお墓参りの支援もおこなっている。	
			(外部評価) 事業所内で提供する共用デイサービスやショートステイのサービスを利用しながら、事業所に馴染んでいけるよう支援して、入居に至ったようなケースもある。利用者のご自宅の近所の方で、よく事業所に訪ねて来てくれていた方が亡くなった際には、ご本人の希望で、ご本人が御香典を持って行けるよう、職員が付き添われた。又、ご自宅の様子を見ると納得される方には、定期的にご自宅を見にお連れしている。お墓参り等に職員が付き添われることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) コミュニケーションが円滑に進むよう、必要に応じて職員が間に入っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 複合施設の利点を活かし、ご本人様のためにより良いサービスが活用できないか、ご家族のお気持ちも含め利用していただけるように努めていく。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃から声かけを行い、本人の意向を把握できるよう努めている。困難な方は本人本意で物事を考えるようにしている。 (外部評価) ケアマネジャーは、買い物に行きたい等の希望にできるだけ沿えるよう努めておられる。管理者は、今後さらに、「職員は、利用者とのコミュニケーションを図って、深くふれ合ってほしい」と話しておられた。	ケアマネジャーは、介護計画を作成するにあたり、利用者が「昔はどのようなことをしていたか」「家ではどうだったか」等、以前のことについての情報収集に取り組みたいと話しておられた。理念の実践に向けて、以前のこと・現在のこと・今後のこと等についての情報を集めて、介護計画につなげて支援に取り組みしてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 個人ファイルに生活歴や生活環境など記入し職員が把握出来る様にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録にて1人1人の生活リズム、状態が把握出来る様にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
				面会等で御家族のケアに対する意見等を聞く様に努めている。1月に1回医療とのカンファレンスを設けている。
			(外部評価)	
				ケアマネジャーが利用者やご家族に、「暮らしへの意向」を聞き取り、訪問看護師の助言等も踏まえて介護計画を立て、6ヶ月ごとに見直すようになっている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
				介護記録に記入し、朝・夕の申し送り、昼にミーティングを行い情報を共有し、実践している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
				心身の能力や嗜好、社会性に応じて通所など他事業の活用もおこなっている。
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
				年間行事の際に周辺施設へ協力依頼をしている、又散歩や買物をする等御本人の気持ちにより添えるよう努めている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 24時間体制で医療従事者と連絡がとれるようになっている。	
			(外部評価) 事業所は、「医療行為ができるグループホーム」を特徴としておられ、協力医や訪問看護と連携して、「胃ろうや糖尿病の処置も可能」になっている。事業所では、早期に利用者の変化に気付くことに努めておられ、その都度、訪問介護や協力医に報告するようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 訪問看護師に健康状態や適切な処置を受けれている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 緊急時はまず職員により医療連携、救急搬送時の同行をおこない早急な対応を行なっている。連絡を密にして情報交換や相談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階で家族と話し、医師との話し合いも行っている。又、医師・看護師のアドバイスの元、介護を行っている。	
			(外部評価) 入院されたが、ご家族や利用者が「ホームに帰りたい」と要望され、事業所で終末期を過ごされている利用者がおられる。調査訪問時には、居間にベッドを設置して、みなが集まる場所で休んでおられた。昼食時には、吸いのみで水分補給したり、ゼリーを食べられるよう、職員が時間をかけて支援されていた。現在は9割の利用者、ご家族が事業所で「最期まで自然に過ごす」ことを希望されている。事業所では今後、「馴染みの雰囲気の中で、利用者とのコミュニケーションを大切に最期まで支援したい」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 他部署・主治医と連携して急変時や事故の時など、応急処置の訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的(年2回)に避難訓練を行っている。	
			(外部評価) お孫さんが来られ、一緒に1階にある喫煙所で、たばこを吸うことを楽しみにされている方がいる。消防訓練時は、近隣住民と、地元消防団の団長も参加されており、いざという時には協力してもらえるようになっている。事業所は、建物の2階部分に位置しており、訓練時には、裏階段から利用者を避難させる訓練等にも取り組まれた。事業所は海の側に立地しているため、津波等の際には、避難に難しさを感じておられるが、今後も地域の方達とともに知恵や工夫を持ち寄り、安全と安全に向けて、取り組みをすすめていかれてほしい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 1人1人の性格を把握し、言葉使いに気をつけ声かけを行っている。居室訪室の際も必ず本人様の許可を得てから対応している。	
			(外部評価) 車いすを使用する方について、テーブル席で過ごす時には、フットレストは、利用者の希望により上げ下げされている。管理者は今後さらに、利用者個々の「できたこと」について一緒に喜ぶ等、コミュニケーションを増やし、利用者の自信や意欲を高められるよう、取り組みたいと話しておられた。居間のベッドで休まれている方等のプライバシーの確保への取り組みや、又、「寝間着がすき」で、日中も寝間着で過ごされているような方等についても、ご本人の暮らしのあり様について以前の生活の様子を探ったり、配慮や工夫できる点はないか、ケアについて話し合ってみてほしい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人にわかるように説明し、自己決定したり納得してもらえるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本共同生活として一緒に食事やレクなど他の利用者と協力して頂く様努めるが、本人の生活リズム意思を尊重するようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 髪のカットなど希望があれば美容院へ付き添って行っている。訪問美容もしていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 1人1人の好みを把握し、食事を提供している。下膳や食器拭きなど職員と一緒に手伝って下さっている。毎食前口腔体操を実施している。 (外部評価) 調理専門の職員を配置して、事業所で食事を作っておられ、利用者に味付けや固さ、好き嫌い等、感想を聞き、利用者のお好きなものを作るようにされている。利用者の状態に応じて、ご飯も、おじややおかゆにされていた。	利用者一人ひとりについて、食事を楽しむことができるよう、職員のかかわり方についても工夫されてほしい。又、普段の食事については、時にはご家族や運営推進会議のメンバー等の協力を得て、一緒に食事するような機会を作る等、「食事を楽しむ」と言う観点から意見を聞いてみてはどうだろうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分などチェック表に記入してひと目でわかるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る人は行ってもらい、出来ない人は職員介助にて口腔ケアを行っている。口腔体操も実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) チェック表にて1人1人の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。</p> <p>(外部評価) 「トイレに行きたい」と何度も職員に訴える方がおられ、職員は、利用者のタイミング等をみてトイレ誘導されている。「下剤や浣腸をできるだけ使用しないで済むように」、トイレ内に、「排便したら職員を呼んでください」という貼り紙をして、職員が排便の有無を確認して調整をされている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 排便がしばらく見られない時は、かかりつけ医師の指示により下剤を服用してもらっている。朝のリハビリ体操等のレクリエーションを通して運動を働きかけている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 本人が入浴したいかどうか確認をし入浴を行っている。保清・感染防止のため最低でも週2回の入浴(清拭)は実施している。</p> <p>(外部評価) 入浴専門の職員を配置して、「入浴表」を作り、回数等を管理されている。男性職員の介助を嫌がる女性利用者には、同性職員が介助できるよう支援されている。さらに、利用者のこれまでの入浴習慣や好み等を探りながら、支援に工夫を重ねていかれてほしい。終末期を過ごす利用者について、事業所では今後「ご家族にも体を拭いたりしてもらえような支援」も考えておられた。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 日中本人の希望があればソファーや居室で休息をとってもらっており、夜間も本人の就寝時間に合わせるようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者ごとの薬情をみて理解に努めている。服薬は間違えないよう職員2人で確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食器拭きや洗濯物などを手伝ってもらったり、将棋やカラオケなどレクリエーションも行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の方が面会にこられた時に一緒に買物に行かれたりしている。	
			(外部評価) 「受診に出かけることも外出」と捉えておられる。ご家族が来られて、外出されたり、近くで開催される伊予市のお祭り時には、一緒に出かけ楽しめる方もいる。又、4月に替わられたケアマネジャーは、外出支援に力を入れて取り組んでおられ、日常の中で利用者の希望をお聞きして、「時計やタオルがほしい」と言われる方には、100円ショップに買い物に出かけたりされている。又、「出かけたくない」と言われる方には、「用事があるので一緒に行ってみよう」等、誘い方を工夫されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理している人もいるが、出来ない人は1人1人金庫に入れて管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分で出来る人はしてもらって、出来ない人は職員が行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 清掃をし、いつも綺麗な状態で居心地よく過ごしてもらえるようにしている。 季節感を採り入れるという工夫がされていない。 温度計で温度管理を行っている。</p> <p>(外部評価) 床がフローリングのユニットと、カーペットを敷いたユニットがある。七夕の笹飾りが飾られており、短冊に俳句を書いている方もおられた。掲示物等は、季節遅れのもの等が見られたり、職員に向けての注意事項等が複数貼ってある。雑誌等が用意されていたり、日中、大型テレビを点けておられ、利用者は、それぞれにテーブル席で静かに過ごされていた。居間には、防犯と利用者の様子をみるために、モニターカメラが設置されており、録画されるようになっている。</p>	<p>この機会に、居間等の共用空間が利用者にとって居心地のよい空間となっているか、環境面について点検されてはどうか。たとえば、季節感や生活感等を感じられるような環境作りや、利用者ご自分から活動したくなるような環境作り等、利用者が主体の空間作りへの取り組みをすすめていかれてほしい。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用の場所を設けて利用者間同士でコミュニケーションをとってもらえるようにしている。</p>	<p></p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人・家族と相談し使い慣れた物など取り入れて好みの環境になっている。</p> <p>(外部評価) 5月には、ご家族の了解のうえ利用者個々の状態に合わせてユニット間の移動をされた。職員が居室の掃除をされている。居室のベッドで長時間を過ごす方もおられ、調査訪問時には、クーラーをかけて休んでいる方もみられた。仏壇を置いて日々手を合わせ、水の取り換え等ご自分でされる方がいる。</p>	<p></p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 利用者が少しでも自立できるよう、担当職員と相談して工夫している。</p>	<p></p>